

平成31年度(令和元年度) 佐賀市立久保泉小学校 学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
雄飛学園共通目標「元気あふれる学校」 久保泉小学校目標「夢をもち進んで学ぶ心やさしい子どもの育成」 佐賀県及び佐賀市の教育方針に則り、保護者や地域の願いに応えるべく、未来の創り手となるために必要な児童の資質・能力の育成を図る。 かしこい子 ・既存の知識を活用し、筋道を通して考え、問題解決できる子 ・他者と学び合い、自分の考えを進んで表現できる子 やさしい子 ・思いやりの心を持ち、友だちと仲良く活動できる子 ・よいことを進んで行い、きまりやマナーを守ることができる子 ・社会や地域に目を向け、人や環境を大切にできる子 たくましい子 ・めあてをもって最後までがんばることができる子 ・進んで、元気に気持ちよいあいさつができる子 ・健康で安全な生活を実践できる子 児童の「出番」をつくり、「役割」を与え、「承認」して伸ばす教育の実践	1 [雄飛学園「めざす15歳の姿」]を目指して、雄飛学園教育を推進する。 ・開発的生徒指導(出番・役割・承認)を推進する。 ・幼小小連携や9年間を見通した小中連携を推進する。 2 学力向上を図る ・国語科を中心に、思考力・表現力を育む授業実践を行い、確かな学力の習得と資質・能力の向上を図る。 ・学習状況調査の分析をもとに授業改善に取り組み、分かる授業、力をつける授業をめざす。 ・「雄飛学園メソッド」による9年間を見通した学習習慣の定着を図る。 3 命と人権教育を推進する。 ・一人ひとりの子ども理解と心の教育を充実させる。 ・支援を要する子どもへの校内体制を強化する。 4 「雄飛学園メソッド」に基づいた生活習慣や規律ある行動の定着をめざす。 ・3つの「あ」(あいさつ・あんぜん・ありがとう)の推進。 5 子どもへのまなざし運動と市民性を育む地域と連携した教育を推進する。

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価					
①[雄飛学園「めざす15歳の姿」]を目指して、雄飛学園教育を推進する。					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)
教育活動	○小中連携の推進	・三校合同授業研究会 ・三校合同研修会 ・児童生徒間の交流	・「確かな学び部」の構想に基づき、各校の授業研に参加し小中連携による研鑽を深める。 ・「すこやかな育ち部」「豊かな心部」の構想に基づき、全員が研修に参加し小中連携による研鑽を深める。 ・遠足的行事、宿泊学習、修学旅行、部活動体験等の行事を利用して、小小及び小中の児童生徒間の円滑な交流を図る。児童の意識調査で85%以上を指標とする。	・中学校教員は、児童の学習の様子を観察し中学校の教育課程の一助とする。小学校教員は卒業後の児童の育ちを観察し、現指導内容を再吟味する機会とする。 ・宿泊学習では5年生と、修学旅行および部活体験では6年生においてそれぞれ金立小と交流することで、金泉中1年生へのスムーズな接続を図る。 ・生徒指導上の課題については、PTAや地域の協力を受け入れていく。	確かな学び部 すこやかな育ち部 豊かな心部
	●志を高める教育	・開発的生徒指導(出番・役割・承認)の推進	・児童の積極的姿勢を引き出し力を伸ばすとともに、自信を持たせるために開発的生徒指導に取り組む。	・児童の活躍の場を広く設定する。 ・児童の積極的な姿勢や努力する姿の把握に努めるとともに大いに称賛し、自信をもたせることで、夢や目標に向かって努力しようとする気持ちを育む。	すこやかな育ち部
②学力向上を図る					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)
教育活動	●学力の向上	・学習状況調査結果 ・CRT検査結果	・5、6年は4月の学習状況調査結果に対して12月は1割増を指標とする。 ・4年生は12月の学習状況調査に於いて0.90を指標とする。 ・2、3年はCRT検査に於いて1.0を指標とする。	・既習事項を振り返り、定着を図るようなドリルやプリントに取り組ませる。 ・家庭学習目標時間を意識させ、学習強化週間においてまなざしカードを活用する。	確かな学び部
		・授業改善状況 ・読書量及び習慣 ・スキルタイムの状況	・「めあて」「まとめ」「書く活動」「話し合う活動」「振り返り」流れを意識しながら授業を進める。 ・図書室の本の個人貸し出し冊数の目標を低学年、中学年、高学年ごとに決めて、読書の奨励をする。「読書活動の充実」児童の意識調査85%以上を指標とする。 ・朝のスキルタイムを活用して、学力の基礎固めをする。	・授業のまとめを自分の力で書くようにさせることで、思考力・表現力を培うようにする。 ・まなざしカードや家庭学習などをチェックし、読書習慣が身に付いてきたか把握する。 ・週末は、家での読書習慣を付けるため、ブックバックの週末持ち帰りを呼びかける。また、実施状況を図書委員会に調査させ、達成状況を全校に知らせる。そのとき、図書委員会おすすめの本を紹介する。 ・「のびるタイム」で、「音読、計算、聴写・視写、フラッシュ」に取り組むことで、集中力を身に付けるとともに学力の向上につなげる。	確かな学び部
	○校内研究の充実	・研究授業 ・日常の授業	・研究授業、提案授業を通して、職員の授業力向上及び「根拠を明確にしながら自分の考えを表現する力」の育成をめざす。 ・「考えを伝え合う学習」児童の意識調査90%以上を指標とする。	・本時の流れや単元の流れを明確にして、子どもたちに見通しを持たせることを継続する。 ・線を引かせたり色分けさせたりする読み取りの手立てや発表の仕方、話し合いの進め方の指導の工夫に取り組む。	確かな学び部
③命と人権教育を推進する					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)
教育	●いじめ問題への対応	・職員研修及び組織対応の充実 ・いのちいじめを考える日の手立て	・いじめについての職員研修の充実と、いじめや問題行動に対する体制作りに取り組む。 ・アンケート実施、及び結果を全職員で共有し、いじめの早期発見と児童の実態把握に努める。	・機会あるごとに職員研修を行い、「いじめのない学校を創る」という意識を高めるとともに、いじめや問題行動に対して組織で対応できる体制作りに努める。 ・いじめアンケートの結果を職員で共通理解をしながら、該当児童やクラスへの指導に生かす	豊かな心部

活動	●心の教育	・人権教室の実施 ・教育相談, 特別支援教育の充実(支援体制強化)	・人権教室を通して全校児童に心の教育を図る。「おもいやり・ぼかぼか言葉」児童の意識調査で95%以上を指標とする。 ・教育相談・特別支援対象児童の共通理解と支援体制強化を図り, 個性や多様性を尊重する風土を創る。	・全校単位や学年グループ単位で参加体験型の人権教室を開く。 ・学期に1回配慮を要する児童について話し合い、共通理解を図る。(7月, 12月, 3月) ・スクールカウンセラー(5月～3月, 12回)への相談を啓発する。 ・校内支援体制の作成, 実行, 修正をする。 ・発達障がいについての理解を深め, 支援について研修を行う。 ・学期に1回は校内支援委員会を開催する。また, 必要に応じて開催する。	豊かな心部
----	-------	--	--	---	-------

④「雄飛学園メソッド」に基づいた生活習慣や規律ある行動の定着をめざす。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)
教育活動	●健康・体づくり	・3つの「あ」の推進と基本的な生活習慣の確立 ・体力の保持増進	・3つの「あ」(あいさつ・あんぜん・ありがとう)と結び付けながら、児童に健康・安全について意識づけをしていく。「はやね・早起き・朝ごはん」児童の意識調査で90%以上、ヘルメット着用100%を指標とする。 ・楽しく運動する習慣を身につけさせる。	・まなざし週間の時, 児童に特に取り組みたいことを決めさせ, 達成状況を確認する。また, まなざし週間の結果を保護者に通知する。 ・ヘルメット着用について機会あるごとに話題にし, 意識付けとする。また, 保護者会等を利用し, 保護者の意識啓発を行う。 ・学年ごとに, 児童全員が毎週外で遊ぶ曜日を設定し, 実施する。	すこやかな育ち部

⑤子どもへのまなざし運動と市民性を育む教育を推進する

教育活動	○特別活動	・環境教育の充実(環境ISO)	・85%以上の子どもが環境を守る行動をすることができる。	・「環境ISO」4つのめあての達成ができたか, 週に1回各クラスで振り返りをする。 ・環境委員会が各学年の取り組み状況を伝える。 ・学校での取り組みの様子を地域・家庭に発信する。	豊かな心部
	○地域連携	・まなざし運動と市民性を育む教育の充実	・地域のまなざし運動と連携し, 市民性を育む教育を推進することによって, 市民の一員としての意識の向上をめざす。 ・「地域行事への参加」児童の意識調査で90%以上を指標とする。	・行事の意義や地域と関わることのよさを伝えたり, 地域の行事への参加を称賛したりすることで, 地域行事への積極的な参加を奨励する。 ・生活科・総合的な学習の時間では, まなざし運動を展開する地域の人・団体と年に2回以上は連携する。	

⑥業務改善・教職員の働き方改革の推進

学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・役割分担と業務の適正化の推進	・業務の精選。 ・校務分掌の適正な配分。 ・時間を意識して働くことの定着。	・外部からの依頼の受け入れを一定の視点をもって精選する。①地域に根ざした教育を推進するもの②学習指導要領に沿っており児童の学びの幹を太くするもの③担当教員に過重な負担をかけないもの ・校内運営機構への配置について, 業務に指数を定め, 校務分掌の負担度を可視化し, 適正に校務を割り振る。 ・会議縮減, 定時退勤日完全実施を推進し, 時間を意識して働くことを定着させる。	
------	--------------------	-----------------	---	---	--

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)
学校運営	○学校経営方針の周知	・学校教育目標の周知徹底 ・学校HP, 学校だよりによる情報発信	・保護者, 児童, 教職員, 学校評議員, 地域の方々に周知徹底し, 認知度95%以上をめざす。 ・新しい情報は学校HPで発信し, 情報を保護者の手元に届ける。学校だよりは行事連絡ではなく, 校長の経営方針が伝わるものとする。	・全校朝会, PTA総会, 地域連携協議会等で学校目標と経営の概要を説明する。また校舎内各所, 学校HPなど常に目につくところに掲示し周知を図る。 ・学校HPは主に校長が管理し, 必要な情報を迅速に発信し, 保護者の閲覧状況を把握する。 ・学校だよりは紙面を工夫し, 児童の良さ, 職員の良さ, 地域の良さ等を発信し, 学校の応援団を増やす。	

●は共通評価項目のうち必須項目, ○は独自評価項目